

ぐんま教師塾の1年を振り返って

商業班 県立館林商工高等学校 第2学年 浜口 裕行
桐生市立商業高等学校 第2学年 小島 雄一

班別研修に対する所感

- 担当指導主事と班のメンバーと共に授業づくりを考える中で、自己の授業を客観的に分析して改善に役立てることの重要性と、他者の意見を取り入れながら授業改善を進めていく柔軟性が大切であることを感じた。
- 自己の授業を撮影したビデオでの授業研究では、自分の授業を客観的に見ることで多くの事に気付いた。授業のリズムとテンポ、話し方、授業展開、立ち位置など改善すべき点が多々あり、その後の研修と授業改善に向けて大きなヒントとなった。

多彩な講師陣による講義や講話に対する所感

- 教育関係者の方々の講義・講話からは、各々の教育現場での経験からの教育や授業に対する考え方や授業の方法、生徒を指導する心構え等を伺った。その中で「生徒が自ら気付き、発見し、学ぶ」授業の重要性を感じた。
- アナウンサーや予備校講師など、普段は接することのない職種の方々の講義・講話からは、外部から向けられる教育に対しての期待や厳しい視点、それぞれの職種での経験談等を伺い、新たな「気付き」があると共に、教育のプロフェッショナルとしての責任を感じた。

授業参観協力校等での授業参観に対する所感

- 「情報A」の授業を参観させて頂いた。全体を通して教師が「教える」部分と生徒が「自ら考える」部分のメリハリがあり、授業中における生徒指導が行き届いた授業であった。
- 教材も生徒が興味を持つ身近な題材を精選しており、ティームティーチングの特性を生かした工夫がされていた。積極的に取り組む生徒の姿が印象的であった。

授業実践とその参観に対する所感

- 授業実践では、自己課題解決のための視点を持って臨んだ。本研修での授業に対する模索や教材などの事前準備が奏功し、自己課題の解決に向けた授業が展開できた。
- 班のメンバーの授業参観では、お互いに授業を見合うことにより自己課題を解決するうえでのヒントをつかむことができた。
- 研修開始から授業実践までを振り返ってみると、有意義な「ぐんま教師塾」であった。

担当指導主事 職業情報研究グループ 小林 努